

研究所たより 研究所たより

日本労協連では、介護保険制度の開始以前から、ホームヘルパー養成講座を開催してきました。センター事業団を中心に全国各地での修了生は約4万人とも言われています。数年前からはヘルパー講座のテキストも発行して、労協の目指す「コミュニティ・ケア」の担い手を育成する支援をしています。

ちなみに、日本労協連グループとしての最初のヘルパー講座は、実は協同総合研究所が行ったものでした。余談ですが、今年、協同総研が引越しをして新しい事務所に移った際、同じビルの介護事業所「ひよこ」さんにご挨拶に伺ったら、代表の方から「以前、協同総研のヘルパー講座で資格を取得した」とのお話をお聞きしました。

ところで、労協のヘルパー講座で資格を取得したケアワーカーの一部は、さまざまな形で労協の「地域福祉事業所」を立ち上げたり、すでにある「地域福祉事業所」の担い手になったりしています。調査がないので、どのくらいの割合で労協の講座出身者が働いているかはわかりませんが、ケアの仕事と並んで、自らヘルパーの養成講座を企画し、そこに参加した人々から新たな仲間を募っていくことも、地域福祉事業所の事業の一つの柱となっています。

そんな中で、3、4年ほど前から、全国の各都県より単にヘルパーの養成にとどまらない、仕事おこしの講座として「上級ヘルパー講座」の委託を受けるようになりました。また自治体と並んで、厚生労働省の外郭

団体である「雇用開発機構(旧雇用促進事業団)」の各地の出先機関からも、同様の講座委託を受けています。現在までに十数都県でこのような講座を行っています。特に地方では、資格は取得しても仕事がない、という状況があり、仕事おこしまで支援するという点で労協方式に期待が高いようです。

講座の内容は、ホームヘルパー2級の養成講座(法定130時間)を基本に、ガイドヘルパーや福祉用具相談員などいくつかの資格取得を加え、さらに現場見学や実習の時間を多くとっています。また仕事おこしの講座として、コミュニティ・ビジネスや協同組合についての講義も組み入れています。

特に今年に入ってから、若年失業の問題を重視した講座が増えています。募集条件を30歳以下などとして(通常はハローワークなどを通じて募集を行う)若者だけを対象にした講座で、介護を中心としたコミュニティ・ビジネスで就労機会を創り出すことが目的です。中には、講座修了後の就職率によって委託金額にインセンティブが設定されている場合もあります。

協同総研からは要請を受け、鹿児島、埼玉、千葉、福島などの講座に講師を派遣してきました。通常のヘルパー講座の受講生はやはり子育てを終えた女性が圧倒的に多いので、若者向け講座には当初不安もありましたが、思いのほか皆真剣に(寝ている人もいましたが)コミュニティ・ビジネスで仕事をおこすことに関心を持っているようでした。

もちろん、委託講座という仕組みも含め、まだまだ問題も多く、「仕事おこし」という目的に効果をあげるためには、カリキュラムも含めもっと研究する必要があるように思います。協同総研としても積極的にこの

講座事業に関わって生きていたいと思っています。予算や時間のこともありなかなか難しいのですが、ぜひ会員の皆さんにも力をお借りしたいと考えています。

菊地 謙

講演のお知らせ

下記の要領で講演会を開催しますので、ふるってご参加ください

演 題：施設型ケアの質の向上をめざして：イギリスにおける高齢者ホームの課題

講演者：ダイアンヌ・ウィルコックス（リーズ大学ヨーク・セントジョン・カレッジ学長）

通 訳：有り（中村久司博士）

日 時：2004年10月23日（土）午後2：00 ～ 4：00（終了後レセプション）
（なお、講演終了後にウィルコックス学長を囲む簡単なレセプションを行ないますので、こちらにもご参加ください）

会 場：明治大学駿河台校舎（研究棟会議室あるいはリバティ・タワー大学院）
<詳細は追ってお知らせいたします>

詳細につきましては中川雄一郎までお願いいたします。

中川雄一郎（明治大学政経学部）

なお、本講演会は明治大学国際交流センターのプログラムです。